

平成 2 9 年 度 事 業 報 告

平成 29 年度事業概況

平成 29 年度の国内経済は、雇用や個人消費が改善し、設備投資や輸出も持ち直すなど、全体として緩やかな景気回復基調が継続しました。

海外に目を転じますと、先進諸国でのトップの交代や、政権の多様化・複雑化が相次ぎました。さらに各地でのテロの頻発や東アジアで軍事的緊張が高まり、不安定で不透明な状況が続きましたが、年度末には、ピョンチャンオリンピック・パラリンピックを一つの契機として、米朝会談の実現の可能性が開けるなど、国際関係に新たな兆候も見えてきました。一方、これからの地球環境問題や世界のさまざまな課題解決に向けて「SDGs」（エス・ディー・ジーズ）＝「持続的な開発目標」が新たな国際合意として本格的に動き出し、日本政府も本格的な取り組みに着手しており、今後の企業経営にもかなりの影響を与えることが想定されています。

時代の大きな転換期を迎え、激変する経営環境の中、印刷産業の状況を見てみると、印刷総需要が停滞する中で、原材料、物流、燃料などの値上げや、人出不足などが重なり、厳しい経営環境が続きました。こうした困難を乗り越え、印刷産業の活性化を進めることを目的に、日印産連は平成 27 年、「グランドデザイン」を策定し、印刷産業がこれまで以上に社会的責任を果たすことにより、社会の発展に貢献し、われわれ印刷産業も成長していくことをめざし、下記の 4 テーマに注力しました。

- 1) 印刷産業の価値創出に資する活動
- 2) 社会の期待に応え、誠実に行動する産業に向けた活動
- 3) 地球環境への配慮を前提とした事業活動の展開
- 4) 印刷産業の果たしている役割と機能を広く周知していく活動

これらのテーマに沿って編成された委員会・部会・WG を通じて、多様な課題解決に向けた活動を進めました。さらにグリーンプリンティングとプライバシーマーク審査認定事業を積極的に展開して、印刷産業の社会的責任の向上に資する活動の徹底を図りました。今期は特に、「印刷とわたし」エッセイ・作文コンテストの実施や、印刷会社の地域創生への取り組みを紹介する「地域おこしめっせ」を初めて開催するなど、業界内外をつなぐ取り組みを一段と強化しました。

I. 事業活動

I 常設委員会活動(業界基盤整備事業) / 顕彰委員会

業界基盤の整備および体質強化を図るための常設委員会活動は、昨年に続き5委員会を編成した。各委員会では、それぞれの事業計画に基づいて様々な活動を展開した。また顕彰委員会では、印刷産業の活性化につながる顕彰制度を目指した活動を継続した。

1 ステアリング・コミッティ (運営委員会)

【1】概要

本年度は、事業計画の礎となる「グランドデザイン」の深耕年として、会員10団体の会長および常設委員会委員長をメンバーに、各委員会および認定事業の活動における諸課題の検討を行った。

委員会での主な議案(検討事項)としては、通常議案である「事業報告・決算報告」「事業計画・収支予算」「9月印刷の月・新年交歓会等の主要行事」「日印産連表彰・印刷環境優良工場表彰・GP環境大賞」などに加えて、無期転換ルールへの対応を含む「日印産連 諸規定の改定」などの新たな議案が検討された。

また報告事項としては、「エッセイ・作文コンテスト『印刷と私』」「地域おこしめっせ2017」「主催コンクールについての各種情報(作品募集・審査結果・表彰式展示会のご案内)」「FAPGA(アジア印刷会議)2018年東京開催」などが取り上げられ、具体的な活動内容について報告された。

行政への対応としては、経済産業省との案件では「外為法に基づく対北朝鮮輸出入禁止措置の延長」や「ヒアリの侵入防止に係る対応」「地方創生セミナー開催」などの周知を、厚生労働省との案件では「企業における人材育成の推進に関する要請」や「STOP!熱中症 クールワークキャンペーン」などへの対応を、会員10団体事務局と連携して行った。また、内閣府との案件では「新規大学卒業予定者等の就職・採用活動開始時期について(要請)」などに対応した。

委員会名	開催回数	実施内容
ステアリング・コミッティ (運営委員会)	5回	<ul style="list-style-type: none"> *平成29年度 事業報告並びに決算報告 *平成30年度 事業計画並びに予算収支 *日印産連表彰 / 印刷産業環境優良工場表彰 *GP環境大賞・GPマーク普及大賞の表彰 *2017年9月印刷の月 / 2018年 新年交歓会 *平成30年度 日印産連 主要行事日程
① 10団体専務理事連絡会	5回	

《本委員会開催日》

第1回	平成29年	5月11日(木)	於：日本印刷会館会議室	201号
第2回	平成29年	8月2日(水)	於：日本印刷会館会議室	201号
第3回	平成29年	10月18日(水)	於：日本印刷会館会議室	201号
第4回	平成29年	12月13日(水)	於：日本印刷会館会議室	201号
第5回	平成30年	3月14日(水)	於：日本印刷会館会議室	201号

【2】委員名簿

ステアリング・コミッティ(運営委員会) (計16名)

(敬称略、◎は委員長)

連合会役職	所属団体		氏名	会社名
	団体名	役職		
◎副会長	印刷工業会	副会長	浅野 健	(株)金羊社
常任理事	印刷工業会	副会長	堆 誠一郎	宝印刷(株)
常任理事	印刷工業会	副会長	新村 明義	新村印刷(株)
副会長	全印工連	会長	臼田 真人	(株)アドピア
常任理事	全印工連	副会長	作道 孝行	作道印刷(株)
常任理事	全印工連	副会長	細井 俊男	新日本印刷(株)
常任理事	全印工連	副会長	滝澤 光正	滝澤新聞印刷(株)
副会長	フォーム工連	会長	小谷 達雄	(株)イセトー
常任理事	ジャグラ	会長	中村 耀	NS印刷製本(株)
常任理事	全日本製本	会長	大野 亮裕	(有)協和製本
常任理事	G C J	会長	田村 壽孝	(株)東京ニュース
常任理事	全日本シール	会長	田中 祐	山王テクノアーツ(株)
常任理事	全国グラビア	理事長	田口 薫	大日本バックページ(株)
常任理事	全日本スクリーン	会長	吉見 正彦	マルワ工業(株)
常任理事	全日本光沢	会長	鶴田 和也	宏和樹脂工業(株)
価値創出委員会 委員長			(滝澤 光正)	
企業行動委員会 //			(堆 誠一郎)	
地球環境委員会 //			(田口 薫)	
広報委員会 //	印刷工業会	理事	岩岡 正哲	岩岡印刷工業(株)
顕彰委員会 //			(浅野 健)	

【3】主な実施内容

ステアリング・コミッティ(運営委員会)における「議案(検討事項)」および「報告事項」

*第4回会議後、委員より運営見直しの意見を受け、来年度は10団体の共通テーマを取り上げる

□ 第1回

1. 平成28年度 事業報告並びに決算報告(案)の件
2. 平成29年度 日印産連表彰の推薦(案)の件
3. GP環境大賞・GPマーク普及大賞表彰規程(案)／
同選考委員会規程(案)および委員会規程(関連箇所)改正の件
4. 報告事項
 - (1) 第16回印刷産業環境優良工場表彰の応募／選考状況について
 - (2) 平成29年4月／都道府県別会員企業数一覧

□ 第2回

*新メンバー(全日本シール田中会長)のご紹介

1. 平成 29 年度 日印産連表彰の件
2. 第 16 回 印刷産業環境優良工場表彰の件
3. 2017 GP 環境大賞および GP マーク普及大賞表彰の件
4. 2017 年 9 月印刷の月（講演会・記念式典・懇親会）の件
5. 報告事項
 - (1) エッセイ・作文コンテスト「印刷と私」の実施について
 - (2) 9 月印刷の月関連事業 「地域おこしめっせ 2017」について
 - (3) プライバシーマーク審査認定事業 10 周年記念シンポジウム開催について
 - (4) FAPGA（アジア印刷会議）2018 年東京開催について

□ 第 3 回

1. 2017 年 9 月印刷の月式典 開催結果の件
2. 平成 30 年度 日印産連 主要行事日程(案)の件
3. 2018 年新年交歓会(案)の件
4. その他
 - (1) 「9 月印刷の月」 関連事業「地域おこしめっせ 2017」開催報告について
 - (2) エッセイ・作文コンテスト「印刷と私」について
 - (3) 2017 GP 環境大賞（普及大賞）および作文コンテストの表彰式について
 - (4) 技能五輪国際大会（アブダビ大会）の状況について
 - (5) 「若手印刷人のためのオープンセミナー」開催について
 - (6) FAPGA（アジア印刷会議）2018 年東京開催について
 - (7) シンポジウムのご案内「プライバシーマーク審査認定事業 10 周年記念シンポジウム」
 - (8) 財団設立 70 周年記念誌「印刷図書館コレクション」出版パーティ開催のご案内について
 - (9) 平成 30 年度 ステアリング・コミッティ 年間予定について

□ 第 4 回

1. 第 17 回印刷産業環境優良工場表彰 実施の件
2. 平成 30 年度 日印産連主要行事日程（確定）の件
3. 「2018 新年交歓会」開催概要（確定）の件
4. その他
 - (1) 「ジャパン SDGs アワード」への応募について
 - (2) 平成 29 年度 印刷産業における環境自主行動計画の状況について
 - (3) 「印刷と私」コンテスト選考結果/GP 認定&コンテスト表彰式について
 - (4) 若手印刷人のオープンセミナー開催報告について
 - (5) FAPGA（アジア印刷会議）2018 年東京開催の概要について
 - (6) 第 59 回全国カタログ展・第 69 回全国カレンダー展について
 - (7) 第 57 回 JPC 展 作品募集開始のお知らせ
 - (8) 平成 29 年度 第 1 回個人情報保護研究セミナー開催のお知らせ
 - (9) 環境関連法規集セミナー開催のお知らせ
 - (10) 技能五輪 国内イベント実施のお知らせ

□ 第 5 回

*山田会長挨拶

1. 平成 30 年度事業計画並びに収支予算（案）の件
2. 平成 30 年度におけるステアリング・コミッティ（運営委員会）の件
3. 日印産連 諸規定の改定（案）の件
4. 報告事項
 - (1) FAPGA（アジア印刷会議）の進捗状況について
 - (2) 主催コンクールについて
 - (3) 第 3 回女性活躍推進セミナーの開催について

2 価値創出委員会

【1】概要

印刷産業の価値創造に資する情報交流・情報提供・発信・共有・教育・研修等を促進することを目標に活動した。

- ・地域連携情報交流サイト<じゃぱにうむ>を基盤とした地域連携事業として、「地域おこしめっせ 2017」を開催し、印刷業界がリードする地域おこしを広く紹介するとともに、印刷産業の新たな展望を示した。
- ・事業領域の拡大をめざした地域おこし・地域連携事業等の調査研究および企画提案活動の推進
- ・市場動向や最新技術動向の情報収集と情報発信
- ・知的財産権（著作権、地域ブランド戦略等）の調査研究、情報交流および啓蒙活動の推進
- ・印刷業界の事業継承に係る経営課題の検討、特に後継者育成のための啓蒙活動として若手育成セミナーを昨年に引き続き実施した。

委員会名	開催回数	実施内容
価値創出委員会	3回	<ul style="list-style-type: none"> * 価値創造に資する情報提供、事業ニーズ調査研究 * 地域連携事業の具体化検討等、企画提案活動推進 * 各部会活動報告、市場拡大に向けた固有技術調査研究、技能五輪国際大会に係る実施計画検討、事業承継における人材育成教育の検討
① 市場動向調査部会	2回	・印刷関連市場調査分析と市場拡大に向けた提言
② 知的財産部会	10回	・知的財産権問題の調査研究、周知啓発活動の実施
③ 技術部会	1回	・情報化及び高度化技術の調査研究（工場見学実施）
■デジタルプレス推進協議会	1回	・デジタルプレス動向調査実施、報告会の開催
■印刷技術標準化WG 印刷用語集改定委員会	1回	・アクセス解析と対応。当印刷用語集へのアクセス数の変化（月15千件前後で推移）
技能五輪検討委員会 ・選手強化訓練・研修 ・技能五輪国際大会	12回	<ul style="list-style-type: none"> ・技能のレベルアップ、メンタル面強化の社外訓練 ・2017年10月アブダビ・アラブ首長国連邦にて実施 亜細亜印刷㈱早瀬真夏選手は第4位敢闘賞。
・技能五輪国際大会プレ予選会	1回	・2017年2/16実施（都立中央・城北職業能力開発センターにて）
印刷不良判定技能プロジェクト		・次回国内選考会の問題作成準備に入るも、具体的な活動はなし。
標準色(Japan Color)プロジェクト		・具体的な動きはなし。
■情報化プロジェクトWG	13回	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページのスマホ対応、セミナー申込フォームの作成 ・ハード面のセキュリティ強化 ・地域おこしめっせ出展社応募、開催告知等支援対応を行うも、具体的な活動はなし。
■価値創出WG		

《本委員会開催日》

第1回	平成29年	7月20日(木)	於：日本印刷産業連合会	会議室
第2回	平成29年	11月15日(水)	於：日本印刷産業連合会	会議室
第3回	平成29年	2月21日(水)	於：日本印刷産業連合会	会議室

【2】委員名簿

価値創出委員会（計14名）

（敬称略、◎は委員長、○は部会長）

連合会役職	所属団体		氏名	会社名
	団体名	役職名		
◎常任理事	全印工連	副会長	滝澤 光正	滝澤新聞印刷(株)
○理事/市場動向調査部会長	印刷工業会	理事	花崎 博己	大東マーケティングソリューションズ(株)
○知的財産部会長	印刷工業会		萩原 恒昭	凸版印刷(株)
○理事/技術部会長	印刷工業会	理事	服部 克彦	瀬味証券印刷(株)
常任理事	印刷工業会	専務理事	小澤 典由	印刷工業会
理事	全印工連	常務理事	橋本 唱市	文唱堂印刷(株)
	フォーム工連	常任理事	石井 啓太	共同印刷(株)
	ジャグラ	専務理事	沖 敬三	勝美印刷(株)
	全日本製本	理事	本間 敏弘	本間製本(株)
	G C J	常務理事	中田 辰悟	(株)一真社
	全日本シール	副会長	清水 重行	(株)テクスチャー
	全国グラビア	理事	赤穂 昌之	(株)日商グラビア
	全日本スクリーン・デジタル	副会長	佐竹 博志	(株)アイ・エス・アイ
	全日本光沢	専務理事	大島 一夫	太陽樹脂工業(株)

【3】主な実施内容

〔1〕地域おこし事業の調査研究と事業推進～『地域おこしめっせ2017』

インバウンド事業の拡大とともに、各地域の文化資源や産業資源を魅力あふれる地域資源として掘り起すと同時に、地域のブランド化をおし進め、情報資源として一般に公開していくことを重要なテーマとして企画立案。講演会・展示会・ワークショップより構成。

- （目的）
- ・地域おこしのモデルを示す
 - ・情報の共有化による地域おこし事業の連携強化
 - ・印刷産業が地域おこしをリードする新しい仕組みを考える

（実施内容）主催：日本印刷産業連合会 共催：大阪府印刷工業組合

後援：観光庁、経済産業省近畿経済産業局、大阪市、大阪商工会議所

①特別シンポジウムとパネルディスカッション（9月15日）（会場：太閤園）

- ・基調講演：東京理科大学専門職大学院・生越由美教授
『印刷産業の地域ブランド戦略～地域資源を掘り起こし活用するために～』
- ・パネルディスカッション
『印刷が仕掛ける地域連携とブランド戦略～地域資源を掘り起こす新たな展開～』
第一印刷(株)西原孝太郎氏、兵庫県立大学大学院秋山秀一氏、凸版印刷山本小百合氏

秋田印刷製本(株)大門一平氏

・レセプション交歓会

観光庁観光地域振興部観光資源課太田雄也課長補佐、経産省近畿経済産業局クリエイティブ産業ユニット松本じゅん室長補佐、(株)電通関西支社日下慶太氏ら来賓を囲み交歓会を開催。

②展示会(9月27日～30日、会場：大阪国際交流センター) 出展社：20社、バリエさん出演

③ワークショップ(9月27日～29日、会場：大阪国際交流センター)：

文の里商店街活性化とデザインホースタッフプロジェクト、地域のブランド力を引き出す「アナログ力」インバウンドによる大阪簡易宿所ビジネスの変貌、ポップカルチャーと印刷産業ビジネス
尼崎と元町商店街の観光促進プロジェクト、印刷会社だからできる！地域ブランディングプロジェクト

[2] 事業継承に係る経営課題の検討：第2回 若手印刷人のためのオープンセミナー

(日本プリンティングアカデミーとの共催、テーマ『印刷産業の経営課題と経営戦略』)

主旨

- ・社会とともに成長発展していく印刷産業の社会的責任を理解した上で、次代に挑戦する印刷業界の新たな力(価値)を学び、経営戦略に役立てる。
- ・参加者の多様な意見やアイデアを結集させ、印刷産業の新たな価値創出への大きな手掛かりを獲得できることを目標にする。
- ・自社の経営資源(リソース)を活用した経営戦略を立ち上げるための一助として、各自が応用展開できるよう双方向の研究・考察を行う。

(日程) ①2017年11月7日(火)14時～18時 ②21日(火)9時～12時 ③28日(火)9時～12時

[3] 市場動向調査部会

印刷産業に関するデータおよび関連資機材データの収集(経済産業省等行政当局発表資料・各種業界団体などの関連データ)ならびに分析を行う。

- ・会員向け隔月刊誌「印刷産業関連データ」、年報「マーケティング・データ・ブック2018」の発刊(別紙:出荷額)
- ・月次更新データのホームページ掲載。

印刷業(従業員100人以上)の生産額 318億5200万円、対前年同月比▲3.0%(24ヶ月連続減少)(経産省)

- ・年4回の動態調査実施(従業員100名以下の中小企業・会員10団体の企業約250社の協力)

H29年度	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
調査対象企業数	245	246	246	246
回収数	49	46	52	38
回収率(%)	20	18.7	21.1	15.4

【表彰・公募関連】

- ・経済産業省：地域未来牽引企業
地域経済牽引事業の担い手の候補となる地域の中核企業として「地域未来牽引企業」2,148社が選定
- ・東京商工会議所 第16回「勇気ある経営大賞」応募企業の募集(前回第15回の資料別紙添付)
- ・中小企業庁 平成30年度予算「中小企業連携組織対策推進事業(中小企業活路開拓調査・実現化事業)」

[4] 知的財産部会

タイムリーなテーマの抽出や業界としての課題の調査研究に取り組み、解決に向けた提案活動を進めている。知的財産権に関するトラブル・疑問や注意点に関する討議の成果をJFPI REPORT誌等へ掲載し、印刷会社の日常業務に役立てている。また政府・行政省庁の知財関連意見募集へ積極的に対応し、印刷業界としての提言するほか、地域ブランド戦略など地域資産活用に向けた知的財産戦略を検討している。

<活動内容>

1. 知的財産に関する研究「こんなときどうする?! 知的財産アドバイス」～JFPI誌他掲載

- ・第27回 ギフトセット商品を制作する場合の注意点
小熊のぬいぐるみと小熊がプリントされたタオルをセットにした商品の制作を依頼されたケース
 - ・第28回 従業員が制作した著作物に関する注意点
従業員にwebサイトの挿絵やコンテンツ制作をお願いする場合の著作権の取り扱いについて。
 - ・第29回 地域おこしに関わるキャラクター制作時における知的財産権問題
地域の観光協会が主催するキャラクター制作コンペに応募する際の注意点
 - ・第30回 他社が制作したデザインデータを利用する場合の留意点
廃業したデザイン会社のカタログ制作を引き継ぐよう得意先から指示があった場合の注意点。
2. 特許庁の動向
- ・「地域知財活性化行動計画」に基づく「都道府県の特徴を踏まえた平成31年度までの目標」の決定
(2017/12/25)
特許庁は、各地域・自治体の特徴を踏まえて、地域・中小企業に対する支援施策をよりきめ細やかに実施するため、「都道府県の特徴を踏まえた平成31年度までの目標」をとりまとめた。
特許庁では、昨年9月に知財分野における地域・中小企業支援について「地域知財活性化行動計画（以下、「行動計画」）」を策定。中小企業の持つ知財の権利化・活用を支援することにより、中小企業によるイノベーション創出、地方創生及び我が国の成長力向上を目指す。本行動計画に基づき、支援の取組状況を客観的に評価できるよう、それらの「成果目標」（KPI）を全国レベルで設定した。
3. 産業構造審議会 知的財産分科会 不正競争防止小委員会「データ利活用促進に向けた検討 中間報告（案）」に対する意見 ～2017年12月27日提出 ホームページ掲載
今後ビッグデータを活用したビジネスの拡大が想定されるため、法改正の動向には引き続き注視する必要があります。

産業構造審議会 知的財産分科会 不正競争防止小委員会
「データ利活用促進に向けた検討 中間報告（案）」に対する意見

(意見)

「データ利活用促進に向けた検討 中間報告（案）」で示されている考え方（データに係る不正競争行為の範囲の拡大や不競法による保護対象の拡大等）については、基本的に賛同する。

ただ、今後データを利活用したビジネスが一層進展することを鑑みると、どの企業もデータ提供者とデータ取得者（転得者）双方の立場となり得るため、どちらか一方の立場に配慮した対応ではなく、双方のバランスを考慮した制度とすべきである。

また、不正競争防止法の中に、既存の営業秘密とは別に保護規定を設けることとなるため、より機密性の高い管理が必要とされる営業秘密に関する規定とのバランスを、保護要件やエンフォースメントの観点からも考慮する必要がある。

さらには、データの性質上、ボーダレスに流通することが想定されるため、将来的には国際的にハーモナイズされた制度となるよう、行政に期待したい。

個別の意見については、次の通りである。

1. 「第一章 データ利活用促進に向けた制度について」における「3. データに係る不正競争行為」について

ここでは新たに「不正競争行為」とする行為類型（①～⑧）が示されているが、現状ではこうした行為類型に該当する行為がどの程度発生しているのか不明であり、立法事実の積み重ねが十分になされていない状況で、想定されるケースとして規定されているように思われる。

従って、こうした行為規制の内容が適正か否かの評価は現段階では難しく、今後の運用実態を注視しながら、必要に応じた再度の法改正やガイドラインの改定を、柔軟に検討すべきである。
2. 「第一章 データ利活用促進に向けた制度について」における「3. データに係る不正競争行為（3）転得者類型について（ii）（9 ページ、10 ページ）」について
 - ・意見①

転得者 D が「不正な経緯を知らず取得」した際の行為が示されているが、単に善意であればよく、提供元（B または C）に適正な権原があるか否かの確認（調査）や契約上での安全性の担保までは求められないという理解でよいか、ガイドラインにおいて具体的に示して頂きたい。
 - ・意見②

転得者 D が「不正な経緯を知らず取得」した際の行為が示されているが、その使用に関して、事後的に悪意に転じた場合の記述がないことから、事後的悪意であっても、使用行為が「不正競争行為」となることはなく、提供元（B または C）との契約上許容されている範囲であれば依然として使用に問題はないという理解でよいか、ガイドラインにおいて具体的に示して頂きたい。
 - ・意見③

転得者 D が「不正な経緯を知らず取得」し、その後に悪意に転じた場合も、提供元と締結していた契約の範囲（権原）においては、その提供行為は「不正競争行為」とならないとされているが、契約期間満了後に自動延長条項が付されている場合には、どのような対応となるのか、ガイドラインにおいて具体的に示して頂きたい。

以上

[5] 技術部会

1. 技術部会全体
 - 1) 外部講師による講演会の実施
 - 2) 社内検定の紹介と導入援助
2. デジタルプレス関係・・・アンケートによる動向調査と報告会の実施
3. 印刷技術標準化 WG
 - 1) 技能五輪関係
 - ①アブダビ大会代表選手強化と訓練、大会本番までの HP アップ
 - ②技能五輪国際大会プレ予選会（周知イベント）
 - 2) 印刷用語集関係・・・Web 版印刷用語集の用語などの追加・修正
4. 情報化プロジェクト関係・・・情報管理の見直し検討、日印産連 HP のスマホ対応

<具体的な活動内容>

1. 技術部会（7/14）
 - 1) 講演会「強いプレッシャーに負けないメンタルの仕組み」（2/13 羽田野 健 先生）
 - 2) 社内検定の推進
 - ・全日本スクリーン・デジタル印刷協同組合連合会では、具体的な検討が進む

- ・全日本シール印刷協同組合連合会では、具体的な動きなし
2. デジタルプレス推進協議会 (12/1)
- ・前年度のアンケート内容を基本に、自由記入欄を増やし、意見を吸いやすくする。
 - ・2017年3月29日に報告会実施
3. 印刷技術標準化WG
- 1) 印刷用語集改訂委員会 (2/23)
- ・用語集関連のサイトが増え、当印刷用語集へのアクセス数が変化 (月15千件前後で推移)
- 2) 技能五輪関係
- ① 選手強化
- ・技能のレベルアップとメンタル面の強化を狙い社外訓練を12回実施
 - ・印刷職種の事務局として積極的に強化訓練にも参加した。その中で、技能五輪に対する印刷会社の認知度は不十分で、もっとアピールする必要があると感じた。
 - ・選手、エキスパートと一緒に技能五輪国際大会の運営組織の役割と権限の理解のための研修、選手育成・エキスパートのスキル習得研修、メンタルトレーニングの研修、ルールメイキング研修などに参加、印刷職種に対する注目度アップに貢献した
- ② 技能五輪国際大会 (2017年10月アブダビ・アラブ首長国連邦)
- ・11ヶ国が参加、第1位ブラジル (金)、第2位フランス (金)、第3位スイス (同) 亜細亜印刷株・早瀬真夏選手は、第4位敢闘賞
 - ・エキスパートの役割が従来と違ってきて、国際大会の運営に係わることが中心となっており、情報収集でも重要な役目がある。メダル獲得のためには「人脈作り」が不可欠で、従来のように、大会のたびにエキスパートが代わるようでは、上位入賞は難しくなっている。
 - ・従来は代表選手の会社から通訳を選ぶことができたが、今回から「通訳抽選制」にルールが変更され、印刷知識のない者が通訳となった。このため、通訳のトレーニングも実施して国際大会に参加したが、英語はできても、選手とエキスパートとの意思疎通で問題を残した。今後は、通訳なしでもある程度は意見交換ができる英語力が必要である。
- ③ 技能五輪国際大会プレ予選会 (技能五輪周知イベント) (2/16)
- ・全国大会のない印刷職種は、2016年 (偶数年) が代表選手選抜の年度、2017年 (奇数年) が国際大会の年度となっているが、中央職業能力開発協会 (JAVADA) より国際大会の年度にも競技会の実施を検討するように要請があり、2/16に都立中央・城北職業能力開発センター (飯田橋) にてJAVADAの支援、東洋インキ (株) の協力を受け実施。
 - ・技能五輪の周知イベントとして、具体的には、技能五輪国際大会の概要説明、アブダビ大会の早瀬選手によるオフセット印刷のデモンストレーション、次回カザン大会の選手候補による国際大会の競技の一部の体験を実施した。
 - ・参加は10社、候補7名 (福岡、京都、愛知からも参加)
(今まで技能五輪代表選手選考会に応募していなかった会社が4社)
- 3) 印刷不良判定技能プロジェクト
- ・次回国内選考会の問題作成の準備に入るも、プロジェクトとしての具体的な活動はなし
- 4) 標準色 (Japan Color) プロジェクト
- ・(一社) 日本印刷産業機械工業会の「Japan Color プロジェクト」に参加したが、具体的な動きなし
4. 情報化プロジェクトWG (今年度は13回開催)
- ・日印産連HPのスマホ対応、セミナー申込フォームの作成
 - ・ハード面のセキュリティ強化

3 企業行動委員会

【1】概要

企業行動委員会では、4つの部会を編成し、それぞれのテーマに沿った活動を積極的に展開した。

情報セキュリティ部会においては、平成29年5月30日の改正個人情報保護法の全面施行に向けての個人情報保護委員会や経済産業省の動向及びJIS Q 15001の改正への対応、さらに標的型攻撃メールを中心としたサイバー攻撃が増加する現状を踏まえて、部会活動を実施した。具体的には、JIS Q 15001の改正にともなって印刷産業における個人情報保護ガイドライン（JIS Q 15001:2006 準拠）の改定及び、書籍「印刷産業のための個人情報保護の手引き」の改訂作業を進めた。また、第1回個人情報保護研究セミナー「個人情報保護マネジメントシステム規格の見直しとサイバーセキュリティの最新情報についての報告」を平成30年1月に開催した。

法令制度部会では、平成29年6月に平成30年度の税制改正要望の取りまとめに向け、10団体経由で各会員企業に税制要望等を依頼、9月14日に部会で内容を検討し、会計士のチェックを経て9月20日に経済産業省企業行動課に「平成30年税制改正要望書」を提出した。また、安倍政権による一億総活躍社会実現に向けた最大のチャレンジとされている経済対策の一つである「働き方改革」に関連するセミナーを企画し、11月24日に日本印刷会館2階会議室において「職場新時代の労務管理セミナー」を開催した。

女性活躍推進部会の活動は3年目を迎えた。委員出席による定例会議を4回開催し、印刷工業会及び全印工連の女性活躍推進及びダイバーシティへの取組み等の活動報告を中心に、各団体の女性活躍推進への取組み状況の共有化をはかった。また、経団連における女性活躍推進及びダイバーシティ・マネジメントに関する委員会活動報告や加盟企業の取組み事例等、さらにはJDN研究会等の資料を参考に、女性活躍推進に関する理解度の向上をはかった。前期に企画立案した第二回女性活躍推進セミナー「ドラッカーに学ぶ働き方改革」を4月26日に開催した。そのアンケート結果を基に定例会議で検討し、第三回女性活躍推進セミナー「ダイバーシティ経営の可能性～女性の登用と業績の向上はどう結びつくのか」(5月9日開催予定)を企画立案した。

労働安全衛生部会では、専門委員4名を含む6名から成るワーキンググループ(座長:寺田勝昭)を設置し、化学物質管理を重点に活動を行った。具体的には、厚生労働省の「化学物質取扱業種におけるリスクアセスメント支援活動促進事業」に委員を派遣し、印刷業界に特化したリスクアセスメント支援ツールを作成した。また、継続してオフセット印刷作業者のVOC個人ばく露低減のための「VOC警報器」の普及に注力した。H29年11月に「VOC警報器」活用印刷会社が、第76回全国産業安全衛生大会でその運用状況について発表するなど、実績を重ねてきている。

委員会名(分科会)	開催回数	実施内容
企業行動委員会	2回	＊個人情報保護、情報セキュリティへの対応 ＊税制・下請法・規制改革等への対応 ＊女性の活躍推進に繋がる各種施策・情報への対応 ＊安全衛生・リスクマネジメントへの対応
① 情報セキュリティ部会 ■個人情報保護WG	2回 11回	・印刷産業における個人情報保護ガイドライン(JIS Q 15001:2006 準拠)の改定
② 法令制度部会	1回	・「職場新時代の労務管理セミナー」の開催
③ 女性活躍推進部会	4回	・第三回女性活躍推進セミナーの企画立案
④ 労働安全衛生部会 ■労働安全衛生WG	2回 12回	・日印産連 2018 版「化学物質のリスクアセスメントシート」(パソコン・ベータ版)の開発、発表、運用

〈本委員会開催日〉

第1回 平成29年 9月20日(水) 於：日本印刷産業連合会 会議室
 第2回 平成30年 3月 6日(火) 於：日本印刷産業連合会 会議室

【2】委員名簿

企業行動委員会 (計 15名)

(敬称略、◎は委員長、○は部会長)

連合会役職名	所属団体		氏名	会社名
	団体名	役職名		
◎常任理事	印刷工業会	副会長	堆 誠一郎	宝印刷(株)
○情報セキュリティ部会長	印刷工業会		成澤 晃一	凸版印刷(株)
○法令制度部会長	印刷工業会		関根 克彦	(株)DNPアカウンティングサービス
○女性活躍推進部会長	印刷工業会		金田 由美	大日本印刷(株)
○労働安全衛生部会長	印刷工業会		城戸崎 博	共同印刷(株)
	印刷工業会	監事	酒井 隆	(株)リーブルテック
	全印工連	常務理事	三島 秀夫	六三印刷(株)
	フォーム工連	常任理事	宮下 裕司	トッパン・フォームズ(株)
	ジャグラ	専務理事	沖 敬三	勝美印刷(株)
	全日本製本	理事	大熊 茂樹	(株)大熊製本
	G C J	専務理事	竹ノ上 蔵造	(株)第一製版
	全日本シール	理事	穴戸 伊助	大輪印刷(株)
	全国グラビア	理事	東 尚男	(株)東シール
	全日本スクリーン	専務理事	飯島 英毅	全日本スクリーン
	全日本光沢	副会長	小原 隆	大和紙工業(株)

【3】主な実施内容

（1）情報セキュリティ部会

平成29年度、情報セキュリティ部会は以下の3項目を基本方針とした平成28年度の活動を踏襲した形で部会活動を行った。

- a. 個人情報保護を中核とした情報セキュリティの徹底により、事故防止はもとより、印刷事業者や印刷業界全体の信頼を獲得し、事業発展に寄与する。
- b. 情報セキュリティ部会以下、プライバシーマーク審査センター・審査員・個人情報保護WG・事務局の連携により、印刷事業者にとって有益な成果を挙げる。
- c. 原稿や製品の取扱いに係る情報セキュリティについては、当面、事業者ごとの取組みに委ねることとし、サイバーセキュリティについては、公開情報の積極的な活用（情報共有化）を図る。

平成29年5月30日の改正個人情報保護法の全面施行に向けての個人情報保護委員会や経済産業省の動向及びJIS Q 15001の改正への対応、さらに標的型攻撃メールを中心としたサイバー攻撃が増加する現状を踏まえて、部会活動を実施した。

平成29年度の主な実績としては、JIS Q 15001の改正にもなっており印刷産業における個人情報保護ガイドライン（JIS Q 15001:2006 準拠）の改定及び、書籍「印刷産業のための個人情報保護の手引き」の改訂作業を進めた。また、第1回個人情報保護研究セミナー「個人情報保護マネジメントシステム規格の見直しとサイバーセキュリティの最新情報についての報告」を平成30年1月に開催した。

1) 部会、個人情報保護WGの活動

平成29年9月5日に委員交代による委員3名を新たに迎え、第1回情報セキュリティ部会を開催した。最初に、IPAがまとめた情報セキュリティ10大脅威を参考に「サイバーセキュリティに関する最近の動向について」部会長から説明があった。続いて、当初10月の公表見込が最終的には平成29年12月20日になった「JIS Q 15001:2017」の概要についての説明(9/5時点での内容について)があり、併せてこのJIS改定にもない対応すべきいくつかの事柄について情報共有した。個人情報保護WGは、今年度、外部から鈴木靖氏（JIS Q 15001 個人情報保護マネジメントシステム改正案作成委員会委員）をアドバイザーとして招き、5月から2月まで10回開催した。主に印刷産業における個人情報保護ガイドライン（JIS Q 15001:2006 準拠）の改定作業及び、書籍「印刷産業のための個人情報保護の手引き」の改訂作業を行った。

2) 印刷事業者の「個人情報保護意識」のさらなる高揚と実践への取り組み

- ①『個人情報保護マネジメントシステム規格の見直しとサイバーセキュリティの最新情報についての報告』と題して、情報セキュリティ部会主催の第1回個人情報保護研究セミナーを平成30年1月に開催し、140名が参加した。
- ②Pマーク取得印刷事業者の内部監査員養成を目的とした「PMS内部監査員セミナー」を、東京で2回（7/5、10/16）開催した。全部で25社64名の参加があった。
- ③新規に個人情報保護マネジメントシステムの構築を目指す印刷事業者の負担軽減となる「印刷産業のための個人情報保護マネジメントシステム構築支援ツール」は、平成26年度に制作に着手し、JIS Q 15001:2006 準拠版として平成29年12月に完成をみた。この構築支援ツールについては、平成29年12月20日公表の改定JISの内容に合わせて改訂する「印刷産業のための個人情報保護の手引き」の「参考資料集」として再整理し、本年8月の完成、頒布を目指す。

3) 「個人情報保護に関する情報」の公開

「プライバシーマーク審査センターHP」において継続して、個人情報保護に関する諸情報、経済産業省及び個人情報保護委員会、さらに（一財）日本情報経済社会推進協会（JIPDEC）等からの発信情報

などを掲載した。今期は改正個人情報保護法及び改定 JIS 関連の情報をタイムリーに掲載し、印刷事業者の個人情報保護に関するさらなる注意を促した。

4) 日本工業標準調査会の JIS Q 15001 改正に対するパブリックコメント対応

2017年7月20日公示、2017年9月19日受付締め切りの日本工業標準調査会の意見受付案件「JIS Q 15001 個人情報保護マネジメントシステム - 要求事項」について個人情報保護WGで検討し、取りまとめた意見10件を提出した。当方の意見が反映され JIS Q 15001:2017 規格本文“0.2 他のマネジメントシステム規格との近接性”及び付属書C (参考) “C. 11.1.6 受渡場所”の2か所が修正された。

5) 個人情報保護WG制作の「印刷産業のための個人情報保護の手引き」等の個人情報保護シリーズの活用促進

PMS内部監査員セミナー等の開催時に「個人情報保護シリーズ」の頒布を実施した。また、プライバシーマーク現地審査時を利用して教育ツールとしての「印刷現場における個人情報保護ワンポイントレッスン」を推奨した。

<販売実績>

- ・「印刷産業のための個人情報保護の手引き」：22部
- ・「印刷現場における個人情報保護ワンポイントレッスン」：19部
- ・「印刷現場における個人情報保護Q&A」：11部
- ・「マイナンバー取扱ハンドブック」：21部 (H29.4.1～H30.1.31 頒布分)

6) 広報活動

日印産連機関誌「J F P I レポート」への出稿

- ・J F P I レポート 2017年4月号・7月号・10月号、2018年1月号に、個人情報保護内部監査員セミナーの開催要領、JIS Q 15001「個人情報保護マネジメントシステム - 要求事項」改正の概要及び個人情報に関する事故報告等に関する記事を掲載し情報提供を行った。

(2) 法令制度部会

1) 経済産業省に「平成30年度税制改正要望書」を提出

平成29年6月に平成30年度の税制改正要望に向けた税制要望等のとりまとめを10団体経由で各会員企業に依頼した。その後、平成29年9月14日に部会を開催し、会計士のチェックを経て同月20日に10団体と連名で経済産業省企業行動課に「平成30年度税制改正要望書」を提出した。要望事項は、前年からの継続要望が20項目、新規要望が6項目の合計26項目で、法人実効税率の更なる引き下げ、中小企業における軽減税率の特例の延長、外形標準課税の導入拡大の反対、投資促進税制や基盤強化税制の本則化等を要望した。平成30年度税制改正のトピックスは、働き方の多様化を踏まえ、様々な形で働く人をあまねく応援する等の観点から個人所得課税の見直しを行うとともに、デフレ脱却と経済再生に向け、賃上げ・生産性向上のための税制上の措置及び地域の中小企業の設備投資を促進するための税制上の措置等が講じられたことである。さらに、中小企業の代替わりを促進する事業承継税制の拡充、観光促進のための税として国際観光旅客税が創設された。

2) 「職場新時代の労務管理セミナー」の開催

安倍政権による一億総活躍社会実現に向けた最大のチャレンジとされている経済対策の一つである「働き方改革」に関連するセミナーを開催した。我が国では少子高齢化による働き手不足が深刻化し、働き方の改革が待ったなしとなってきた。働き方の改革は、働く人はもちろんのこと、企業経営の舵取りにも大きな影響を与えることは間違いのないところであり、経営者がかつて経験してきたこととは違った異次元の環境へと向かうことが意図されている。政府は昨年9月27日に第1回の「働き方改革実現

会議」を行い、以降10回にわたって議論が積み重ねられ、平成29年3月28日にこの先の方向性を示した「実行計画」が決定された。日印産連の法令制度部会は、この計画に沿った内容で法改正が行われると予想し11月24日（金）に日本印刷会館2階会議室にて「職場新時代の労務管理セミナー」を開催した。講師は、小島経営労務事務所の特任社会保険労務士小島信一氏にお願いし、「働き方改革」の中身と工程スケジュール、今後どのような改正がなされていくのか、同一労働同一賃金、労基法の改正などを焦点に説明を行った。参加者は労務管理部門の責任者及び実務担当者をはじめ、会社経営者が約50名参加した。

（3）女性活躍推進部会

平成28年4月1日の女性活躍推進法の施行からおおよそ2年が過ぎ、大手企業は女性活躍推進に関する数値目標及び活動計画を公表し、目標達成に向けた活動を推進している。また、過度な長時間労働などの働き方を見直し、多様な人が働きやすい環境を整える「働き方改革」への圧力が強まっている。一方、「無意識の偏見」等、女性活躍を阻む要因が新たに認識されるようになり、また、女性からみた場合、職場の改革はまだ途上との調査結果もある。印刷産業においても経営戦略として女性活躍推進に取り組む企業は全体からみてまだ少ない。

このような環境において、日印産連 女性活躍推進部会は27年度に策定した以下の活動方針に基づき、29年度も継続して活動を行った。

【活動方針】

1. 女性の活躍推進に関する国及び会員団体の情報等を10団体で共有する
2. 女性の活躍推進に向け経営者の意識の変革を行う
3. 印刷産業に働く女性の連携を強化する
4. 印刷産業における女性の活躍推進に関する活動情報を発信する

【具体的活動実績】

1) 定例会議の開催

委員出席による定例会議を4回開催し、印刷工業会及び全印工連の女性活躍推進及びダイバーシティへの取組み等の活動報告を中心に、各団体の女性活躍推進への取組み状況の共有化をはかった。経団連における女性活躍推進及びダイバーシティ・マネジメントに関する委員会活動報告や加盟企業の取組み事例等及びJDN研究会等の資料を参考に女性活躍推進に関する理解度の向上をはかった。また、今年度は活動方針に掲げた「印刷産業に働く女性の連携を強化する」というテーマの具体化について検討を行った。

・第1回定例会議（6/2）

- ①日印産連 第二回女性活躍推進セミナー(4/26)のアンケート結果について
- ②印刷工業会、全印工連の女性活躍（ダイバーシティ）関連の29年度計画について
（他8団体の女性活躍推進に関する取組みの報告）
- ③女性活躍推進部会 平成29年度具体的活動内容について

・第2回（メンバー変更なし）定例会議（8/29）

- ①印刷工業会、全印工連ほか各団体の女性活躍推進活動についての情報共有
- ②第三回女性活躍推進セミナーのテーマについて
- ③第1回「印刷業界 女性リーダーの会（仮称）」トライアル開催の件
- ④日印産連参加のJDN平成29年度研究会について（働き方改革・ダイバーシティ・マネジメントの論点整理）
- ⑤経団連「女性の活躍推進委員会」資料について

・第3回定例会議(12/4)

- ①印刷工業会、全印工連、各団体の女性活躍推進についての情報共有
- ②第三回女性活躍推進セミナーの実施要領について
- ③女性活躍推進部会 拡大版セッション「WAIGAYAの会」(仮称)の実施について
- ④4年目を迎える女性活躍推進部会の活動継続について
- ⑤日印産連参加のJDN平成29年度研究会について(働き方改革・ダイバーシティ・マネジメントの論点整理)

・第4回定例会議(2/27)

- ①印刷工業会、全印工連、各団体の女性活躍推進についての情報共有
- ②日印産連 女性活躍推進部会主催「第三回女性活躍推進セミナー」(5/9)開催について
- ③女性活躍推進部会の29年度活動実績及び30年度活動計画(案)について
- ④女性活躍推進部会 拡大版セッション「WAIGAYAの会」(仮称)の実施について

2) 女性活躍推進セミナーの企画立案

女性活躍推進部会では平成27年度の立ち上げ時に、女性活躍推進及びダイバーシティ・マネジメントの啓発を目的に、関連するテーマについて3回連続での女性活躍推進セミナーの開催を決定し、28年度、29年度の2回、女性活躍推進セミナーを開催した。平成29年度は第二回女性活躍推進セミナー(4/26開催)の実施アンケート等を参考に定例会議で実施内容を検討し、第3弾として「ダイバーシティ経営の可能性～女性の登用と業績の向上はどう結びつくのか」を企画した。2018年5月9日(水)に開催する。

3) 広報活動

「JFPI REPORT」No. 160(2017年7月号)に記事「日印産連 第二回女性活躍推進セミナー『ドロッカーに学ぶ働き方改革』を開催」を掲載。また、2017年9月発行の「社会責任報告書SRレポート2017」に女性活躍推進部会の活動内容を掲載した。

4) JDNへの参加

日印産連として平成29年度も継続して(一社)ジャパンダイバーシティネットワーク(JDN)に加入することにより、女性活躍推進をはじめとしたダイバーシティに関する行政の動向や企業の取組先進事例の情報入手手段を確保した。JDN主催の「働き方改革」と「ダイバーシティ・マネジメントの論点整理」2つの研究会及びテーマに応じてダイバーシティ情報交換会に参加し、各企業のテーマ毎の取組事例等の情報収集を行った。ダイバーシティ関連のセミナー紹介等が掲載されたJDNメールマガジンについては、平成29年3月から平成30年2月まで19回(vol.38～vol.56)、委員に継続して配信し、部会委員の参加があった。

(4) 労働安全衛生部会

1) 労働安全衛生部会の活動

(部会開催:8/22,H30.2/22 計2回開催)

本年度は、労働安全衛生部会のもと専門委員4名を含む6名から成るワーキンググループ(座長:寺田勝昭)を設置し、化学物質管理を重点に活動を行った。

- ・平成29年度労働安全衛生部会 活動方針・関連活動の実施
- ・平成30年度労働安全衛生部会 活動方針(案)策定

①平成29年度 労働安全衛生ワーキンググループの活動

(4/21, 5/24, 6/20, 7/19, 8/22, 9/26, 10/20, 11/14, 12/19, H301/18, 2/22, 3/13 計 12 回開催)

イ. 日本印刷産業連合会 2018 版 「化学物質のリスクアセスメントシート」 (ベータ版)

労働安全衛生法の改正により (平成 28 年 6 月施行)、事業規模にかかわらず化学物質の製造・取扱いを行う全ての事業場を対象にリスクアセスメントが義務づけられた。これに対応するため、厚生労働省の「化学物質取扱業種におけるリスクアセスメント支援活動促進事業」に委員を派遣し、印刷業界に特化したリスクアセスメント支援ツールを作成した。今回この改良版として、日本印刷産業連合会 2018 版 「化学物質のリスクアセスメントシート」 (パソコン・ベータ版) を開発、発表し、テスト運用を進めている。使用マニュアル等を充実させ、普及を図る。

ロ. 化学物質管理の徹底 ― 「VOC 警報器」の普及

オフセット印刷作業者の VOC 個人ばく露低減のため、あらかじめ決められた VOC 気中濃度を超えると警報を発し、保護具の利用や、洗浄剤使用量の抑制、空気の換気、作業フローの見直しを促す「VOC 警報器」を新コスモス電機と共同開発し、普及を進めている。(H30 年 2 月現在導入台数 計 434 台)

H29 年 5 月に第 90 回日本産業衛生学会で発表したほか、H29 年 11 月に「VOC 警報器」活用印刷会社 (あさひ高速印刷(株) (大阪)) が、第 76 回全国産業安全衛生大会 (主催: 中央災害防止協会) でその運用状況について発表するなど、実績を重ねてきている。また利用者の運用方法などの充実を図るため、「VOC 警報器」Q&A を当連合会ホームページに掲載した。

ハ. 「VOC 警報器」の展開について

日印産連会員 10 団体で、「VOC 警報器」の販売に協力する団体 (印刷工業会、全印工連、フォーム工連、JAGRA) を通じて販売している。(販売実績 422 台) 関連団体とは定期的に状況を確認しており、連携して進めている。また組合加盟会社以外からの問合せもあり、一部は代理店販売も始めている。(代理販売実績 12 台)

2) その他の関連活動

①環境関連法規集改訂 WG

(H28. 8/2, 9/13, 11/10, 12/14, H29. 1/16, 2/20, 3/8, 5/26 計 8 回開催)

印刷産業の環境対応を適正に図るための一助となる手引書として、「印刷産業における環境関連法規集 (2012 年度版)」を発行しているが、水質汚濁防止法、フロン排出抑制法ほか各種法令等のほか、関連法令として労働安全衛生法も大きく改定されており、改訂版「印刷産業における環境関連法規集 (2017 年度版)」を発行 (H29 年 6 月) した。また同法規集を解説するセミナーを H30. 1/16 に日本印刷会館で開催し、約 80 名の参加があった。

4 地球環境委員会

【1】概要

低炭素社会実行計画、循環型社会形成の2つの自主行動計画について、フォローアップ調査を図るとともに、VOC排出抑制についても平成29年度も会員企業にアンケート調査を通じて取り組み状況を把握し、自主行動計画の推進状況を平成29年9月に経産省に提出した。

また、H30年1月30日に開催された産業構造審議会 産業技術環境分科会 地球環境小委員会 製紙・板硝子・セメント等WGにて平成29年度「印刷業の低炭素社会実行計画」フォローアップ内容について報告した。

GP認定制度を広く周知するため、昨年から実施しているGPマークを多く活用している印刷発注者（クライアント）を表彰する「GP環境大賞」に加え、GPマークを多く表示したGP工場を表彰する「GPマーク普及大賞」を創設した。また新たに放送作家の小山薫堂氏を「GP環境大使」に任命するなど、GP制度の普及・認知活動に注力した。

委員会名(分科会)	開催回数	実施内容
地球環境委員会	3回	<ul style="list-style-type: none"> *低炭素社会、循環型社会、VOC排出抑制自主行動計画 *容り法への対応 *「印刷サービス」グリーン基準への対応 *GP認定制度への対応 *「印刷と私」エッセイ・作文コンテストの実施
①環境マネジメント部会	2回	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全活動の充実
■環境自主行動計画推進WG	4回	<ul style="list-style-type: none"> ・低炭素社会、循環型社会、VOC排出抑制自主行動計画 ・容り法対応実態調査および取りまとめと周知活動
■容り法対応WG	6回	
■古紙リサイクル対応協議会 古紙リサイクル対応WG ISO/TC130/WG11 国内委員会・脱墨分科会	4回	
②グリーンプリンティング推進部会	8回	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷物の脱墨評価の国際標準規格化、分析・評価
■GP資機材検討WPJ	17回	<ul style="list-style-type: none"> ・「オフセット印刷サービス」グリーン基準改定検討 ・GP資機材認定基準の策定と拡充の検討 ・GP認定制度の業界内外のマスコミを通じた周知 ・GP認定工場の環境負荷低減効果の確認
■GP周知活動WG	15回	
■GP効果数値化検討WG		

《本委員会開催日》

第1回	平成29年	6月30日(金)	於：日本印刷産業連合会 会議室
第2回	平成29年	12月5日(火)	於：日本印刷産業連合会 会議室
第3回	平成30年	3月7日(水)	於：日本印刷産業連合会 会議室

【2】委員名簿

地球環境委員会（計13名）

（敬称略、◎は委員長、○は部会長）

連合会役職	所属団体等		氏名	会社名
	団体名	団体役職		
◎常任理事	全国グラビア	理事長	田口 薫	大日本パッケージ㈱
○環境マネジメント部会長	印刷工業会		千本 雅士	大日本印刷㈱
○理事/GP推進部会部会長	ジャグラ	副会長	菅野 潔	㈱興栄社
	印刷工業会	理事	田島 久義	㈱久栄社
	印刷工業会		木下 敏郎	凸版印刷㈱
	全印工連	常務理事	池田 幸寛	池田印刷㈱
	フォーム工連	理事	朝日 健之	㈱木万屋商会
	全日本製本	理事	渡邊 博之	㈱博勝堂
	ジャグラ	理事	尾形 文貴	㈱みつわ
	G C J	監事	永井 徹	㈱ナガイアルテス
	全日本シール	常務理事	渡邊 正昭	㈱文昇堂印刷
	全国グラビア	副理事長	安永 研二	東包印刷㈱
	全日本スクリーン	副会長	近藤 浩史	㈱文化社
	全日本光沢	理事	萱楨 雅浩	興亜産業㈱

【3】主な実施内容

（1）環境マネジメント部会の活動（6/28,H30.2/19 計2回開催）

本年度は、環境自主行動計画推進WG、容り法対応WG、古紙リサイクル・脱墨分科会を設置し、環境保全活動の充実を図った。

- ・平成28年度環境マネジメント部会 活動方針・関連活動の実施
- ・平成29年度環境マネジメント部会 事業計画（案）策定

- ・環境自主行動計画推進ワーキンググループ
（6/28,8/23,9/5,9/27 計4回開催）

1) 低炭素社会実行計画

2010年度を基準年度とする、2020年度のCO2削減目標を掲げた「低炭素社会実行計画」は、本年度は当初の予定を上回る実績を上げ、92.0万t-CO2、基準年度比▲13.4%の削減となっている。これにより2020年度の目標値をすでに達成した。これは、設備更新による空調および動力関係の高効率化など事業者の省エネ努力分が大きく寄与している。

なお、電力排出係数は基準年度固定で計画し、算定しているが、未だ多くの原子力発電所が稼働停止しており電力の排出係数が大きくなっている。本年度(2017年度)の調整後排出係数で算定すると、CO2排出量は128.9万t-CO2、基準年度比12.9%増、前年度比▲3.3%減となる。

2) 循環型社会形成自主行動計画

本計画は、「産業廃棄物最終処分量」と業界独自の目標として「再資源化率」をその対象としている。

産業廃棄物処分量については、「2020年を目標年度として年間0.3万トン以下とする。」を目標としているが、本年度は、年間0.1万トンの実績となり目標を達成した。再資源化率については、同じく「2020年度を目標年度として、再資源化95%以上にする。」としているが、印刷業界独自のグリーン基準の設定、その履行等を積極的に実施し、本年度実績は94.9%とほぼ目標を達成した。

3) VOC排出抑制自主行動計画

VOC排出量抑制については1999年度を基準年とし、2010年度における排出量の41%削減(68,100トン)を目標としていたが、VOC回収装置の普及等が進み、既に目標は達成している。その後2010年度実績を基準年(42,700トン)として、この水準を維持することを目標として活動しているが、本年度のVOC排出量は26,800トン(削減率77%)で目標を達成した。

・容り法対応ワーキンググループ

(4/12,7/12,9/20,12/13,H30.1/24,3/2 計6回開催)

1) 紙製・プラスチック製容器の再商品化実施状況に関する調査報告

容器包装リサイクル法は、印刷産業にとって密接に関連する法律であり、同法に対する意向・要望の集約、紙製容器包装及びプラスチック製容器包装を中心とした正確な数量等の基礎データの充実を図るべく、アンケートを実施し状況を確認している。

本年度の日印産連会員団体に加盟している印刷会社における再商品化義務量は、紙製容器359t(昨年比▲20%)、その他プラスチック製容器5,336t(昨年比+1%)であった。また特定容器包装の製造量は、紙製容器43万t(昨年比▲2%)、その他プラスチック製容器が27万t(昨年比+22%)と見込まれ、経年変化では微減傾向であるものの平成29年度は、その他プラスチック製容器が増加した。

2) プラスチック製容器包装・PETボトルの再商品化入札制度等の見直し

プラスチック製容器包装について入札制度が見直され、昨年度から実施されている。特に入札事業者の総合的評価制度の導入や、それに伴う落札可能量の設定等が行われ、また「PETボトルリサイクルの在り方について検討会」が開催されており、今後共その動向・影響について確認していく。

・古紙リサイクル・脱墨分科会

ISO/TC130/WG11 国内委員会開催：5/8, 6/21, 11/21, 12/18, H30.3/23 計5回

脱墨分科会開催：6/1, 8/30, 10/5, H30.1/22 計4回

1) ISO TC130/WG11(環境)における印刷物の脱墨評価方法の国際規格化

日本製紙連合会および各製紙各社も参画し、用紙リサイクル、脱墨方法の国際標準化について内容を詰めている。脱墨評価方法の標準化から、脱墨パルプの評価に論点が移行しており、紙パルプの標準化を進めるISO/TC6(紙・パルプ)国内委員会と連携して進めている。

2) UV インキ印刷物の損紙・裁落の分別の徹底

オフセット UV 印刷物による脱墨工程での障害防止に向けて、古紙再生促進センター、日本製紙連合会、インキ工業会とリサイクル対応型 UV インキの適切な分別回収を促すチラシ「UV インキ印刷物の損紙・裁落の分別にご協力ください」を作成し、関連部署に配布し徹底を図った。

3) トナー型デジタル印刷物のリサイクル適性評価試験方法の精度向上

同試験のトナーインクを分離するフローテーション工程での、試験実施者による評価バラツキを防止するため、専用治具を作り安定性向上を進めている。各デジタル印刷機メーカーからサンプルを入手し、評価テストを実施、確認の上、試験方法に反映させる。

・環境関連法規集改訂 WG

(H28.8/2, 9/13, 11/10, 12/14, H29.1/16, 2/20, 3/8,5/26 計 8 回開催)

印刷産業の環境対応を適正に図るための一助となる手引書として、「印刷産業における環境関連法規集 (2012 年度版)」を発行しているが、水質汚濁防止法、フロン排出抑制法ほか各種法令等のほか、関連法令として労働安全衛生法も大きく改定されており、改訂版「印刷産業における環境関連法規集 (2017 年度版)」を発行 (H29 年 6 月) した。

また同法規集を解説するセミナーを H30.1/16 に日本印刷会館で開催し、約 80 名の参加があった。

(2) グリーンプリンティング推進部会の活動

(4/10,5/23,6/27,7/18,8/31,10/11,H30.1/30,3/6 計 8 回開催)

本年度は、GP 資機材検討 WPJ、GP 周知活動 WG、GP 効果数値化検討 WG を設置して、グリーンプリンティング認定制度の具体的な活動を推進した。特に「印刷と私」エッセイ・作文コンテストを新たに実施した。

・ GP 資機材検討 WPJ

・ケミカル分科会開催：5/22,7/11,9/15,10/19,12/14,H30.2/15 計 6 回

・ハード・ソフト分科会開催：5/22,7/11,10/19,12/14,H30.2/15 計 5 回

・製本用接着剤分科会開催：9/15,10/19,11/22,12/14,H30.2/15,3,29 計 6 回

1) ケミカル分科会

ケミカル分科会では現状の情報交換を行うとともに、日印産連・リスクアセスメントシート内容の確認及び本シートと GP 資機材認定基準との整合性等の検討を行った。

2) ハード・ソフト分科会

デジタル印刷機の新製品等の情報交換を行うとともに、インクジェット VOC 定義について検討を行った。また、VOC 定義変更に伴うインクジェットデジタル印刷機の GP 認定基準改定に向けた検討を行った。

3) 製本用接着剤分科会

製本用接着剤分科会を新設し、新規認定品目として製本用接着剤の認定基準の検討を開始した。具体的には、製本用接着剤が使用される工程、作業及び使用接着剤の種類・内容の洗い出し、主要接着剤の SDS の確認、製本工場の見学、製本業界の実状等、製本用接着剤の認定基準策定に向けた検討を行った。

・ GP 周知活動 WG

・ GP 周知活動 WG 開催：4/10,4/17,5/1,5/23,6/13,6/27,7/14,8/8,8/31,9/19,10/11,H30.1/23,2/23,3/6,3/29 計 15 回

1) 2017GP 環境大賞、2017GP マーク普及大賞の実施

GP マーク及び GP 認定制度を広く周知するため、GP マークを多く活用しているユーザーを表彰する GP 環境大賞、及び受注印刷製品に GP マークを多く表示した GP 工場を表彰する GP マーク普及大賞を継続して実施した。GP 環境大賞 3 社・団体、準大賞 6 社・団体、GP マーク普及大賞 1 社、準大賞 2 社を表彰した。

2) グリーンプリンティング PR 大使活動の継続

GP 認定制度の社会的認知度を高め、消費者にとって身近な存在としてアピールするため、前年度に任命した小山薫堂氏に継続してグリーンプリンティング PR 大使活動をお願いした。PR 大使のアドバイスにより「印刷と私」エッセイ・作文コンテストを実施した。

3) 第 1 回「印刷と私」エッセイ・作文コンテストの実施

GP 認定事務局が主催者となり、本年度新たに「印刷と私」エッセイ・作文コンテストを実施した。小山薫堂氏を審査委員長に迎え、一般の部、小学生の部に分けて 7 月に募集したところ 760 作品の応募があり、うち 17 作品を受賞作品とし表彰式を行った。また受賞作品集を発行した。

4) 2017 グリーンプリンティング認定制度表彰式／「印刷と私」エッセイ・作文コンテスト表彰式の実施

平成 29 年 11 月 20 日（月）15:00～18:30、学士会館において、2017 グリーンプリンティング認定制度表彰式並びに「印刷と私」エッセイ・作文コンテスト表彰式を実施した。当連合会山田雅義会長、GP 工場認定委員会藤倉まなみ委員長の挨拶の後、GP 環境大賞・GP マーク普及大賞、「印刷と私」エッセイ作文コンテスト表彰式、小山薫堂氏と植野広生「dancyu」編集長による「印刷と私」トークショー、及び記念パーティーを行った。GP 工場、GP 資機材参加メーカー、受賞者、ご来賓等、207 名により盛大に行われた。

・ GP 効果数値化検討 WG

GP 工場認定の効果・成果の客観的評価にもとづく効果的な PR 活動と説明責任のさらなる向上を目的に、GP 制度による環境負荷低減効果の見える化（数値化）を図るため、エネルギー消費量と CO2 排出量原単位に絞って、全 GP 工場に実態調査を実施した。

◆関連する部会の活動状況

○ 顕彰委員会関連

(1) H29 年度第 16 回印刷産業環境優良工場表彰

選考委員会開催：7/31 計 1 回

本年度は昨年度に引続き「小規模事業所振興部門」を設置の上、実施した。第 1 次応募は選択式、第 2 次は記述式の審査応募とした。応募総数は 58 工場となり、この応募工場に対して審査・選考を実施後、理事会を経て経済産業省に表彰工場の申請を行い、H29 年 9 月「印刷の月 記念式典」で表彰した。

(2) H30 年度第 17 回印刷産業環境優良工場表彰

審査委員会開催：11/13,12/22,H30.1/31,2/21 計 4 回

H30 年度は小規模事業所振興部門改め「小規模事業所部門」と名称変更し、日印産連会員 10 団体と協力して実施している。第 1 次応募は選択式で、H29 年度と同様の計 51 工場（H29 年度第 16 回は 50 工場）の応募があった。この後、第 2 次応募は記述式応募票にて進める予定。

(3) GP環境大賞・GPマーク普及大賞選考委員会

選考委員会開催：7/31 計1回

昨年に引き続き、GPマーク表示印刷製品を多く発注したクライアントへ感謝の意を表すべく、GP環境大賞を実施した。また、受注印刷製品にGPマークを多く表示したGP工場を他の工場の模範として表彰するGPマーク普及大賞を実施した。受賞者は次のとおり。

【2017GP環境大賞】(3社)

(株)タカラトミー、東武鉄道(株)、(株)武蔵境自動車教習所

【2017GP環境準大賞】(6社・団体)

(株)ジェイアール東日本企画、宗教法人「生長の家」、(一社)日本自動車連盟、

(一財)脳神経疾患研究所、(株)丸井グループ、レインボー薬品(株)

【2017GPマーク普及大賞】(1社)

六三印刷(株)

【2017GP環境大賞】(2社)

(株)笠間製本印刷、(株)文伸

(4) 「印刷と私」コンテスト審査委員会

審査委員会開催：10/23 計1回

社会に広く印刷の役割を再認識してもらうため、グリーンプリンティング認定事務局が主催し、新規に「印刷と私」エッセイ・作文コンテストを実施した。平成29年7月12日～9月10日で募集。760作品の応募があり、一般の部、小学生の部に分け小山薫堂最優秀賞各2作品、小山薫堂優秀賞一般の部2作品、小学生の部1作品、優秀賞各5作品が受賞した。また受賞17作品は作品集としてまとめ発行した。

○ グリーンプリンティング認定事業の活動状況・・・GP認定事業の章を参照

5 広報委員会

【1】概要

グランドデザインに基づいた活動の一環として社会責任報告書を作成するとともに、ホームページの「ぷりんとぴあ」のリニューアルを行い、印刷業界をより身近に感じさせる工夫を行った。また小山薫堂氏を継続して「グリーンプリンティングPR大使」に任命しGP制度の認知向上を目指したほか、第1回「印刷と私」エッセイ・作文コンテストを開催し、応募総数760作品を集めることができた。この作文コンテストは業界内でも多くの方々からの注目を集め、印刷の魅力を再認識する一つのきっかけができた。また2017年にはアブダビで技能五輪が開催されたが、事前に実施された社外トレーニングや技能五輪での競技の様子をホームページで情報発信を行い技能五輪の認知度向上を目指した。

日印産連の主要行事として、2017年「9月印刷の月」の講演会、記念式典、懇親会の実施。国際交流活動としてのWPCF、FAPGAへの参加などを行った。FAPGAは参加国が持ち回りでホスト国となっているために2018年のIGASに合わせて、FAPGA2018は東京で7月に開催することが決定し、その準備を開始した。このほか日印産連主催の4コンクール展の開催、機関誌「JFPI REPORT」の発行などの事業活動を行った。カレンダー展において今年はチャリティーカレンダー販売を行いその販売金と日印産連からの協力金を添えて産経新聞社の「明美ちゃん基金」に寄付を行った。

委員会名	開催回数	実施内容
広報委員会	3回	<ul style="list-style-type: none"> *2017年「9月印刷の月」記念式典・懇親会の開催 *主催4コンクール展の開催 *「JFPI社会責任報告書2017」の発行 *機関誌「JFPI REPORT」の発行 *日印産連ホームページの運営及び「ぷりんとぴあ」のリニューアル *WPCFやFAPGAを通じた国際交流活動 *技能五輪や『印刷と私』作文コンクールなどを通じた印刷業界のアピール *関連団体等への後援・協賛 *マスコミ懇談会の開催
① 広報・企画部会	1回	
主催コンクール展企画WG	3回	
② FAPGA2018 展示WG	3回	

《本委員会開催日》

第1回	平成29年	8月	2日(水)	於：日本印刷産業連合会 801 会議室
第2回	平成29年	9月	4日(月)	於：日本印刷産業連合会 801 会議室
第3回	平成30年	2月	23日(金)	於：日本印刷産業連合会 801 会議室

【2】委員名簿

広報委員会（計12名）

（敬称略、◎は委員長 ○は部会長）

連合会役職	所属団体		氏名	会社名
	団体名	団体役職		
◎	印刷工業会	理事	岩岡 正哲	岩岡印刷工業(株)
○広報・企画部会長	印刷工業会		佐々木 大輔	大日本印刷(株)
常任理事	印刷工業会	専務理事	小澤 典由	印刷工業会
	全印工連	常務理事	白橋 明夫	(株)白橋
	フォーム工連		藤本 昭彦	(株)イセトー
	ジャグラ	理事	早坂 淳	(株)ケーヨー
	全日本製本	副会長	田中 真文	(株)田中紙工
	G C J	副会長	井上 亘	(株)ショウエイ
	全日本シール	専務理事	片桐 敬喜	全日本シール
	全国グラビア	副理事長	竹下 晋司	(株)ダイコー
	全日本スクリーン	副会長	内藤 正和	内藤プロセス(株)
	全日本光沢	理事	木村 亨	旭紙化工(株)

【3】主な実施内容

(1) JFPI 社会責任報告書

ランドデザインの考えに基づき、日印産連の社会責任報告書を昨年に続き作成し 10 団体、協賛企業および国公立図書館、学校附属図書館、学校就職課など約 2,300 か所へ配布した。またこの PDF 版は日印産連ホームページに掲載したほか、国連グローバル・コンパクトへの活動報告として、同ウェブサイトにも掲示された。

(2) 2017 年「9月印刷の月」記念式典の開催

1) 開催概要

日 時：平成 29 年 9 月 13 日（水） 午後 3 時～午後 7 時

場 所：ホテルニューオータニ 本館「鶴の間」

参加者：約 600 名

講演会 『地域創生の視点から印刷業界を考える』

東京理科大学専門職大学院 教授 生越由美氏

第 1 部 記念式典

- ・日印刷連表彰（印刷功労賞・印刷振興賞・特別賞）

- ・第 16 回印刷産業環境優良工場表彰（経産省商務情報政策局長賞・日印産連会長賞・特別賞・奨励賞）

第 2 部 懇親会

(3) 主催4コンクール展の開催

1) 開催概要

	第69回 全国カレンダー展	第59回 全国カタログ展	第57回 ジャパン パッケージング コンペティション	第51回 造本装幀コンクール
主催	(一社)日本印刷産業連合会 フジサンケイビジネスアイ	(一社)日本印刷産業連合会 フジサンケイビジネスアイ	(一社)日本印刷産業連合会	(一社)日本書籍出版協会 (一社)日本印刷産業連合会
後援	経済産業省 文部科学省 (独) 国立印刷局 日本商工会議所 日本製紙連合会 (社)日本マーケティング協会 全国中小企業団体中央会 協賛：全国カレンダー出版 協同組合連合会	経済産業省 文部科学省 (独) 国立印刷局 日本商工会議所 日本製紙連合会 (社)日本マーケティング協会 全国中小企業団体中央会	経済産業省 (公社)日本パッケージデザイン協会 (公社)日本包装技術協会 (公社)日本マーケティング協会 (一社)日本プロモーション・ マーケティング協会 日本百貨店協会 協賛：ジャパンムック(株)／ 平和紙業(株)	文部科学省 経済産業省 東京都 (公社)日本図書館協会 (公社)読書推進運動協議会 (一社)出版文化国際交流会 (一財)出版文化産業振興財団
会期・ 開場	平成30年 1月19日(金)～23日(火) 東京：大崎ゲートシティ アトリウム 1月29日(月)～2月8日(木) 大阪：平和紙業ペーパーボイス	平成30年 1月19日(金)～23日(火) 東京：大崎ゲートシティ アトリウム 2月26日(月)～3月8日(木) 大阪：平和紙業ペーパーボイス	平成30年 4月16日(月)～18日(水) 東京：日本印刷会館2階 4月23日(月)～27日(金) 大阪：平和紙業ペーパーボイス	平成29年 11月3日(金)～5日(日) 神保町 東京堂ホール
審査	平成29年12月6日(水)	平成29年11月7日(火)	平成30年2月2日(金)	平成29年7月3日(月)
表彰式	平成30年1月22日(月) 大崎ゲートシティ	同左	平成30年4月17日(火) 東京一ツ橋・如水会館	平成29年10月19日 日本出版クラブ
応募数	計586点	計373点	計163点	計328点

2) 平成29年度主催コンクール/受賞作品数

	授賞名 (順不同)	カレンダー	カタログ	JPC	造本装幀
1	経済産業大臣賞	3	2	2	1
2	文部科学大臣賞	3	2		1
3	経済産業省製造産業局長賞			2	
4	経済産業省商務情報政策局長賞	4	2	3	
5	東京都知事賞				該当なし
6	国立印刷局理事賞	3	2		
7	日本商工会議所会頭賞	3	2		
8	日本製紙連合会賞	3	2		
9	日本マーケティング協会賞	3	2	1	
10	全国中小企業団体中央会会長賞	3	2		

11	日本パッケージデザイン協会			1	
12	日本包装技術協会賞			1	
13	日本プロモーション・マーケティング協会賞			1	
14	日本百貨店協会賞			1	
15	日本図書館協会賞				1
16	出版文化国際交流賞				1
17	読書推進運動協議会賞				1
18	出版文化産業振興財団賞				1
19	審査員特別賞（審査員奨励賞）	8	2		4
20	日本書籍出版協会理事長賞（主催者）				6
21	日本印刷産業連合会会長賞（主催者）	3	2	5	6
22	フジサンケイビジネスアイ賞（主催者）	3	2		
23	部門賞	27 (66)	10 (32)	24	
24	奨励賞	(20)	(16)		
	受賞作品数	66	32	41	22
	応募作品数	586	373	163	328
		11.3%	8.6%	25.2%	6.7%
	前年	11.4%	8.2%	22.9%	6.6%

3) 応募数の推移（10年間の応募作品数掲載）

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
全国カレンダー展	814	725	718	756	770	714	658	625	604	586
全国カタログ展	358	335	415	469	423	388	379	374	402	373
JPC	224	193	166	164	156	151	176	166	160	163
造本装幀コンクール	383	344	384	309	315	366	334	349	332	328

4) 特記事項

- ・「第69回全国カレンダー展」でのチャリティーカレンダーの販売金21万円と日印産連からの寄付金29万円を合わせた50万円を、国内外の心臓病の子供を救う「明美ちゃん基金」（産経新聞社提唱）に寄付した。
- ・グレゴリー・カレンダーアワードは欧州最大のカレンダー展で、毎年「全国カレンダー展」の上位受賞作品がグレゴリー・カレンダーアワードに出品されている。今年は世界中から800点以上の作品応募がある中で、日本からの応募作品から銀賞2点、銅賞3点を受賞した。
- ・2018年2月8日～10日にライプチヒ（ドイツ）で行われた『世界で最も美しい本コンクール2018』審査会で、造本装幀コンクールにおいて日本印刷産業連合会会長賞を受賞した「くままでのおさらい 特装版」が、銀賞に選出された。応募作品は33か国から608点を数え、その中から最優秀賞の「金の活字賞」1点、金賞1点、銀賞2点、銅賞5点、荣誉賞5点の計14点が受賞した。

(4) 国際交流活動

日印産連では、印刷産業のグローバル課題や地球環境問題などに対応していくため、海外業界団体との情報交換や市場調査を実施している。本年度の主な活動については、以下の2件となる。

1) WPCF (World Print & Communication Forum) 2017 (アジア印刷会議)

- ・2017年 6月8日～10日にデンマークのコペンハーゲンにて開催
- ・参加国：米国、欧州、中国、韓国、インド、オーストラリア、日本
- ・次回の開催は2018年10月にAll-in-Print Chinaの開催に合わせて上海にて行われる

2) 第17回FAPGA (Forum of Asia Pacific Graphic Arts) 2017

- ・2017年5月22日～24日にメルボルンにて、オーストラリアの印刷機材展PacPrintと同時開催された。
- ・参加国は日本、中国、オーストラリア、フィリピン、ニュージーランド、ネパール
- ・次回は2018年7月にIGAS2018と同時開催で東京にてFAPGA2018開催が決定

WPCF及びFAPGAの出張報告会は2017年7月26日(水)に日印産連にて開催した。

(5) 印刷産業の情報発信

- ・ホームページのアクセスログ解析により「ぷりんとびあ」のページへのアクセスが予想以上に多いことがわかり、長期間にわたって情報更新のされていない「ぷりんとびあ」の内容の見直しを広報企画部会及び『ぷりんとびあ検討WG』にて行い、リニューアルを行った。今回の更新で「ぷりんとびあ」の内容も、他のホームページ同様に日印産連内で追加、変更できるようになったので、今後は「ぷりんとびあ」の内容も順次更新できる体制ができた。
- ・小山薫堂氏を継続して「グリーンプリンティングPR大使」に任命しGP制度の認知向上を目指したほか、第1回「印刷と私」エッセイ・作文コンテストを開催し、応募総数760作品を集めることができた。
グリーンプリンティング(GP)環境大賞並びに「印刷と私」コンテスト表彰式を29年11月20日(月)に学士会館にて開催した。このときに特別トークショーとして、「印刷と私」をテーマにした小山薫堂PR大使と植野広生『dancyu』編集長によるトークショーを行い、その後記念パーティーを開催した。
- ・社会責任報告書を、国公立図書館、学校附属図書館、学校就職課など約2,300か所へ配布し、印刷業界の情報をより広く発信するようにした。

(6) 技能五輪国際大会

- ・ホームページに『技能五輪国際大会の紹介』コーナーを設け、数多く行われた社外でのトレーニングの様子などを紹介し、技能五輪をより身近なものに感じてもらうように工夫した。
- ・アブダビで開催された大会中も、現地から毎日その様子をホームページに掲載し、最新の情報をリリースした。早瀬真夏選手(亜細亜印刷)が第4位(敢闘賞)入賞。
- ・H30年2月16日に技能五輪の周知イベントとして『技能五輪国際大会プレ予選会』を飯田橋の中央職業能力開発センターにて開催し、次回の技能五輪カザン大会の選手候補・指導者など、10社20名が参加した。

(7) その他の広報関連活動

1) 機関誌「JFPI REPORT」の発行

機関誌「JFPI REPORT」を年度4回、各2,550部作成して配布。

今年度より全号カラー化を実施

○第159号(平成29年4月号) 32頁 発行日:4月25日

*注目! 地域ブランド戦略最前線

○第160号(平成29年7月号) 40頁 発行日:7月14日

*第32回定時総会 グランドデザイン実現に向けて

○第161号(平成29年10月号) 44頁 発行日:10月25日

*2017年9月印刷の月、地域おこしメッセ2017

○第162号(平成30年1月号) 48頁 発行日:1月25日

*2018年新年交歓会 信頼される印刷産業を目指し、『印刷と私』入賞作品のご紹介

2) 協賛事業

昨年同様、教育研究会(東京都立工芸高校学校 グラフィックアート科が中心)から協力の依頼を受け、「第9回学生グラフィックコンペ」に日印産連賞として図書券2万円を寄贈。

3) マスコミ懇談会/記者会見の開催

□マスコミ懇談会

① 平成29年 8月3日 日本印刷産業連合会会議室

② 平成29年12月14日 日本印刷産業連合会会議室

6 顕彰委員会

【1】概要

本委員会は、「日印産連表彰選考委員会」「印刷産業環境優良工場選考委員会」「G P環境大賞・G Pマーク普及大賞選考委員会」の小委員会を招集し、選考を委嘱する委員会であることから、選考案については各小委員会で作成した。
またメンバーがステアリング・コミッティ（運営委員会）と重複するため、同委員会において各案の検討を行った。

委員会名	開催回数	実施内容
顕彰委員会 (ステアリング・コミッティ)	5回	*日印産連表彰 *印刷産業環境優良工場表彰 *G P環境大賞およびG Pマーク普及大賞
① 日印産連表彰選考委員会	1回	
② 印刷産業環境優良工場表彰選考委員会	1回	
③ 印刷産業環境優良工場表彰審査委員会	4回	
④ G P環境大賞・G Pマーク普及大賞選考委員会	1回	

【2】委員名簿

顕彰委員会(計10名)

(敬称略、◎は委員長)

連合会役職	所属団体		氏名	会社名
	団体名	役職		
◎副会長	印刷工業会	副会長	浅野 健	(株)金羊社
副会長	全印工連	会長	臼田 真人	(株)アドピア
副会長	フォーム工連	会長	小谷 達雄	(株)イセトー
常任理事	ジャグラ	会長	中村 耀	NS印刷製本(株)
常任理事	全日本製本	会長	大野 亮裕	(有)協和製本
常任理事	G C J	会長	田村 壽孝	(株)東京ニュース
常任理事	全日本シール	会長	田中 祐	山王テクノアーツ(株)
常任理事	全国グラビア	理事長	田口 薫	大日本パッケージ(株)
常任理事	全日本スクリーン	会長	吉見 正彦	マルワ工業(株)
常任理事	全日本光沢	会長	鶴田 和也	宏和樹脂工業(株)

【3】主な実施内容

- | | |
|-----------------------------|-------------------------------|
| (1) 日印産連表彰選考委員会 | 開催日：8/2 |
| (2) 印刷産業環境優良工場表彰選考委員会 | 開催日：7/31 |
| (3) 印刷産業環境優良工場表彰審査委員会 | 開催日：7/4 11/13 12/22 1/31 2/21 |
| (4) G P環境大賞・G Pマーク普及大賞選考委員会 | 開催日：7/31 |

本年度は新たに、G P環境大賞・G Pマーク普及大賞選考委員会の「表彰規程（案）・同選考委員会規程（案）」が原案どおりに承認された。